

1 日時：令和5年3月15日（水） 10:00～12:00

2 場所：奈良県文化会館 多目的室

3 出席委員：

横山部会長、大井委員、佐藤委員、中川委員、揉井委員、八代田委員、吉岡委員

4 審議会の開会

・会議の成立について

委員8名中7名の出席があり、奈良県自然環境保全審議会運営要綱第4条第4項の規定により会議は成立する旨事務局から報告

・会議録署名人の指名

横山部会長から、会議録署名人に中川委員並びに吉岡委員を指名

・審議会の公開

「奈良県自然環境保全審議会の会議の公開等の取り扱い」で原則公開と規定されており、本日の部会も公開と決定

5 議事（報告事項）の概要

（1）奈良県ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画のモニタリング報告について

■説明

（事務局）概要説明

■意見等

（大井委員）

猟期の延長時期や目撃効率等についてサンプル数や狩猟者数の情報があると良い。また、9ページでは南部の狩猟者数が結構あるが、8ページを見ると南部で空白の所が多い。これは出猟地域の偏りや出猟カレンダーに記載されていない情報があるということか。

（事務局）

メッシュ数の空白については「出猟者の延べ人数が10名未満となった場合は地図から除く」こととしているためと考えられる。

（八代田委員）

17 ページ図3の6で狩猟と有害で捕獲数を区別しているが、有害捕獲は捕獲数が北部・中部に偏っていて、南部で少ない。有害捕獲が進まない理由をお聞かせ願いたい。

（事務局）

南部は、過疎化等で捕獲される人が少なくなっていることが影響していると考えている。

（八代田委員）

今後、有害捕獲を南部でも進めていかなければならないと思うので、捕獲従事者の方に北部から行ってもらうというような対策を今後講じてもらいたい。

あと、アンケート調査の結果で、26ページ、27ページの空白は、「シカがない」「無回答」、「集落に人が住んでいない」のいずれかということだが、「シカがない」と「無回答」では、意味が変わるので、「シカがない」という回答は色を変えて頂ければ分かりやすい。

（事務局）

ありがとうございます。

（大井委員）

24ページ、25ページの図を見ると南部の捕獲の進んでない地域の方から、被害が増えた、あるいは大きいというような回答が多い。また、捕獲従事者が少ないことが、捕獲実績が上がらないことに結びついていると思われる。指定管理鳥獣等捕獲事業などを活用して南部での捕獲に、他の地域からの捕獲従事者を呼び込むよう取り組まれることが良いと思う。

（中川委員）

南部の方は、捕獲者が少ないとお聞きしたが、南部は面積がものすごく大きい。例えば十津川村にしても1つの支部で有害捕獲者は何人で、他の町村も広すぎる。五條市も広い。

（事務局）

ありがとうございます。

(横山部会長)

7 ページでの比較でも南部で出猟者数が少ない。ただ、次のわな猟 (13 ページ) では、かなり増加している。ただ、銃猟でしか対応できない捕獲もあるので、検討しておかないと問題になると危惧される。参考までに兵庫県でも過疎高齢化の著しいところで、シカが急増して、ほとんど捕獲者がいなくて捕獲対応ができなかったが、昨年 5000 頭捕獲した。鳥取県境の過疎の地域だが、それでも何とか捕れるということがわかった。出猟者数が減っていることは非常に危機感があるので、狩猟と有害について、時期とか場所を検討しないとこれだけ捕獲しても、効果がなくなってくるのではないかなとモニタリング指標を見て思った。

(事務局)

その点について検討してまいりたい。

(2) 奈良県イノシシ第二種特定鳥獣管理計画のモニタリング報告について

(3) イノシシの豚熱の影響を考慮した生息数推定及び捕獲目標の検討について

■説明

(事務局)概要説明

■意見等

(横山部会長)

イノシシの個体数推定手法あるいは増減を表す密度指標について研究の進展があった。シカの場合は密度指標として目撃効率と糞塊密度調査の2つのタイプがある。イノシシについても昨年の段階でくくり罠の捕獲効率が有効とお示ししたが、併せて簡易痕跡指標が開発できた。この簡易痕跡指標はシカの糞塊密度調査に併せて調査ができる。シカの糞塊密度調査にその項目を入れてもらうと省力化して同時に取得できる。ぜひ検討いただければと思う。これは環境省でも試験に使っていただいております。シカの糞塊密度調査よりは少し労力はかかるが指標として使えるというご意見をいただいている。兵庫県立大学のホームページにマニュアルや記録用紙等を先日公開したので参考にしてもらえたらと思う。複数の指標があれば、より精度が増すと思う。これに加えて、自動撮影カメラによる密度指標、これは局所的な生息密度が推定できるというもので、1 県で3メッシュだけでもカメラの情報があると有効だろうというご意見もいただいている。検討いただきたい。

(事務局)

当県もシカの糞塊調査はしている。併せて調査出来ないか検討したい。

(吉岡委員)

豚熱の影響で去年は捕獲が 3000 頭になった。現在の捕獲目標が 9500 頭なのでどう扱うかということだが、計画変更案のスケジュールでは少し遅い気がする。(狩猟の始まる) 11 月上旬とか下旬の段階にはもう何頭捕るのかという目標がある程度定まっていた方が良いような気がする。

(事務局)

出来るだけ早く捕獲目標というものを定めていきたいと考えている。2 月上旬としているが可能な限り早く取りかかれるようにと考えている。

(八代田委員)

豚熱の影響で生息数が減ったということで見直しをされるということだが、他の地域で豚熱が発生してから、3 年 4 年でまた増加に転じていると聞いている。今回の計画は5年間の予定だと思うが、今回変更したのちに増加傾向が出てくれば柔軟に捕獲目標の変更を検討されるのか。

(事務局)

現状における生息数の推定を行い、毎年モニタリング報告で捕獲数等を調べており、増加傾向にあれば捕獲目標数の見直しを柔軟に対応していければと考えている。

(八代田委員)

そういう対応をして頂けるのであれば、先ほど吉岡委員からあったように変更案については早めに、出来れば狩猟期の前で柔軟に対応していただければと思う。

(中川委員)

今年の傾向は猟期の初めは、10 から20 キロ位のイノシシがたくさんいたが、ほとんど捕獲した。今は各地区でそんなに(イノシシ)害はないと思う。今後の目標を立てるといっても、いないものを立てるので難しいと思う。目標を立てても、捕る方からしたらいないものは捕れない。

それを考えて次の目標を立ててもらいたい。

(事務局)

猟師さんから捕れなくなったという話は市町村を通じお伺いしている。現状の 3000 頭という数字を考慮し現実的に被害が増えないくらいで捕っていただけるベースを検討できればと考えている。

(4) 奈良県ツキノワグマ保護管理計画のモニタリング報告について

■説明

(事務局)概要説明

■意見等

(八代田委員)

7 ページ目に記載されている被害状況の林業被害に関して、クマ剥ぎ被害が多い。被害対策は何か講じているのかをお聞かせ頂きたい。

(事務局)

こちらで把握している情報では、クマ剥ぎの防止テープを巻く等の対策があると聞いている。

(八代田委員)

クマ剥ぎ被害が非常に大きいということで、県がやるのか、市町村がやるのかといったことはあるが、対策の支援も検討いただければと思う。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。

(中川委員)

今年度は目撃情報の報告が非常に多い。今年度は雑木の実の成りが非常に悪い。猟師は昔から、雑木に白い花がたくさんついたら、イノシシもカモもリスもクマに至るまでお腹は空かないと、脂たっぷりの肉が出来ると喜んだ。しかし、今年ほど、どんぐりの成りが悪いと当然目撃情報も多くあって当然だと思う。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。

(横山部会長)

環境省モデル地域に選ばれたそうで、良い取り組みが出来るのではないかと期待している。先ほどカメラの台数を増やすと聞いた。非常に良いことだと思う。今後、年間 4 頭ほど学習放獣があるとのことだが GPS の首輪などで行動範囲を調査するとより良いと思う。私が調査している兵庫県は非常に浅い山がたくさんあるところだが、若いオスだと 200 平方キロ～300 平方キロ、実は動き回っていたということが分かった。一方でメスは本当に狭い範囲に留まるということに分っている。奈良県の森林は非常に広いので、GPS 等の情報があると生息数の推定に参考になると思う。環境省のモデル事業などで検討できる余地があるのであれば検討いただければありがたい。

(事務局)

モデル地区の調査については、受託業者と色々と内容を詰めているところです。GPS をつけることができるかも相談して進めていければと思う。

(5) 奈良県ニホンザル第二種特定鳥獣管理計画のモニタリング報告について

■説明

(事務局)概要説明

■意見等

(大井委員)

有害捕獲について捕獲の手段別に表記された方が良いと思う。また、被害の状況は分かったが、対策についての状況が分かるような資料が無い。どこで、どういう対策をしていけば良いか、どう改善したら良いかという検討材料になるので、次回からはデータもお示し頂けたらと思う。

(事務局)

次年度のモニタリング報告で検討したいと思う。

(6) 奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画のモニタリング報告について

■ 説明

(事務局) 概要説明

■ 意見等

(吉岡委員)

山形大学の調査で、シカの DNA を調査したら大台ヶ原などの他の地域と奈良市の天然記念物のシカとは違うという発表があったと思う。奈良市の中で保護地区と管理地区とを設けておられると思うが、そのへんの対応については変化があったのか。

(事務局)

山形大学の先生は奈良のシカの検討委員会の委員でもあるので、今回の調査については事前に伺っていたが、まだサンプル数が多い訳では無いので全体像が明らかになっている訳では無いと考えている。確かに奈良公園のシカと、大台ヶ原やその他の地域の遺伝子と異なっているということが明らかになった。奈良のシカというものが昔から保護されていた結果が目に見える形になった。現代の科学のおかげでデータの的にも明らかになったということは大変良いことだと思うが、管理については旧奈良市を ABCD に分けて D 地区の農業被害が生じているところに絞って実施するというにしているの、おおむね大きな変化は無いという状況である。

以上